釣り糸をすてないで。

みんなでクロツラヘラサギを守ろう!!

クロツラヘラサギ
Black-faced Spoonbill

クロツラヘラサギは東アジアにのみ生息する絶滅が心配されている鳥で、全世界に約2,700羽（2014年）しか確認されていません。主な繁殖地は朝鮮半島の北西部の海域にある小さな無人島などで、3月頃から6月頃に繁殖し、10月から翌年の5月頃まで、日本、台湾、中国、香港、ベトナムなどの地域で越冬します。
日本では、主に九州や沖縄の河口や干潟で300羽以上が飛来、越冬し、トキの仲間で絶滅危惧1B類〈環境省〉に挙げられています。
特徴は、名前の由来になっている黒い顔と平たい“ヘラ”のような嘴（くちばし）です。首を左右に振りながら魚などの餌を探すしぐさがとてもユニークです。
アジア各国で、熱心な調査、研究が行われており、官民で保全の意識が高まっているアジアのシンボルバードです。

クロツラヘラサギの生息地は人の暮らしに近い場所が多いので、人が原因の事故にあう危険も多くなります。最も多い事故は河川や海岸に捨てられた釣り針や釣り糸によるものです。
釣り針が嘴（くちばし）に刺さったり糸が絡まったりすると、クロツラヘラサギの習性で嘴を振って外そうとするので、ますます糸が絡まって嘴が開かなくり、餌を採れなくて衰弱死してしまいます。
また、釣り糸が羽根に絡まって飛べなくなったり、川の中の大きなごみ（自転車、タイヤ、ブロックなど）にぶつかって嘴が折れたり、脚が折れたりすることもあります。けがをしたクロツラヘラサギは人が近づくと逃げるので、弱るのを待って捕獲することが多いのですが、すでに衰弱していて、治療をしても手遅れになる場合が多いのです。
地域、行政などの協力も得ながら、釣り糸やごみを河川に捨てない啓発活動や生息場所の清掃作業など、みんなで協力して、クロツラヘラサギなどの水辺の鳥たちを守りましょう。

釣り糸が嘴（くちばし）に絡まって、嘴が開けなくなったクロツラヘラサギ。その後不明です。 2012.3.17 鹿児島県・錦江湾奥部 *photo:Keiko Miyano*

釣り糸と浮きが両脚に絡まって、脚が腫れてしまったクロツラヘラサギ。保護され回復後に放鳥。 2014.4.14 沖縄県・泡瀬干潟 *photo:Masakuni Yamashiro*

環境省
九州地方環境事務所（那覇事務所）
〒８６２－００４７　熊本県熊本市西区2丁目10番1号
http://kyushu.env.go.jp/
©環境省 2014
製作協力：日本クロツラヘラサギネットワーク
〒８１５－００３３　福岡県福岡市南区大橋1-4-20-601